

学校名	新座市立第六中学校
実施日	令和 4年 1月 24日

＜記入の仕方＞ ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、生徒の自己有用感を高め、確かな学力と社会性を身に付けさせるために指導法の工夫、改善に努めている。	A	自己有用感を高めることが学力向上につながるということが、埼玉県学力・学習状況調査によって示唆されている。本校でも、自己有用感を高める学級経営と日頃の生徒指導で生徒に社会性を身に付けさせようと教職員が共通理解・共通行動を取っている。校内研修でも学力向上のための授業改善に、教科ごとに取組を設定して実践している。	A	学習に集中できる環境を整え、確かな学力を身に付けさせるため、指導方法に工夫と改善が見て取れ、評価できる。 さまざまな教育活動をととして、生徒の自己有用感を高める指導を実施しようとする努力がうかがえる。 学校課題研究の取組に対して、さらに意識を高めるとともに、生徒の学力差に応じた指導の実現が望まれる。
2	学校は、特別な教育的ニーズの把握に努め、それぞれの特性に応じた支援を行っている。	B	一人一人の教育的ニーズを教育相談部会を中心に組織的に吸い上げている。併せて支援策についても、専門スタッフからの知見を参考に具体的に組み立てている。全教員が取り組む情報ファイルは、効果的に活用されている。ニーズの多様化に答えていくことが今後の課題である。	B	一人一人の教育的ニーズの把握に努め、共通理解を図り、対応している。個々への教育支援は難しい面もあると思うが、できるだけ支援をお願いしたい。 特別支援教育コーディネーターを中心に組織的に対応していること、情報ファイルを有効活用していることは、高く評価できる。
3	学校は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携協力による教育相談を適切に実施している。	A	取り扱う事案が複雑で改善が進まない事例も多く、対応に苦慮しているものの、教育相談の専門家であるスクールカウンセラー、社会福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーとの連携が円滑に進み、見通しをもって相談活動ができるようになっている。	A	コロナ禍にあつて、学校・家庭・地域・各関係機関が連携して取り組まなくてはならない課題が増加している。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員との連携をすすめ、教育相談に効果的に活用されており、評価に値する。 生徒たちも悩みや困ったことがあるときには相談できる場があることを理解しているようである。 これからも丁寧できめ細やかな相談活動をお願いしたい。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	ここ数年、職員の入れ替わりも多く、若手教職員が増えてベテランの教員が異動した時期に当たったため、新たな主任層の育成に力を注いでいるものの人材が足りていない印象である。	B	校長の学校経営方針に基づき、学年・学級経営が行われており、職員も校務分掌の組織や役割を理解し、責任をもって職務を遂行している。若い職員の持ち味をいかせるようコミュニケーションを密にしていきたい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	校長が掲げる目指す学校像に連鎖させながら各自が目標を立て、実践を重ねている。学期末に各部会を位置付け、定期的に計画の見直し・改善が図られている。	B	人事評価を有効に活用し、校長が掲げる目指す学校像に連鎖させながら各自が目標を立て、実践を重ねている点は評価できる。 校務分掌の各組織が学期ごとにPDCAサイクルを活用し、定期的に計画を見直し、継続的な改善に努めていた。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるように、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	問題行動・安全教育・教育相談・保健・給食等、校務必携マニュアル・生徒指導上の確認事項を年度の初め全職員に周知し、共通理解を図っている。事故の未然防止を効果的に進めるために、管理職、該当の分掌主任等が注意喚起を行っている。	A	事故の未然防止のためにマニュアル等を教職員に周知し、来校者には、名簿の記入と名札の着用を依頼している。 また不審者情報のメールでの発信、地域の見回り等を実施している点は高く評価できる。

評価項目「**学力向上**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	「授業の約束10ヶ条」は生徒に定着し、授業を受けるルールが徹底しようとしている。昨年より落ち着きがない印象であるが、全体としては、落ち着いて授業を受けている。	A	着席チャイムや「授業の約束10ヶ条」は生徒に定着している様子である。 授業規律も概ね安定して保たれており評価できる。 魅力的な授業を展開することで、さらに生徒に主体的に学ぶ姿勢を身に付けて欲しい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	新型コロナウイルスの影響により、クロームブックを活用した授業を実施するようになった。孤立した学びにならないよう気をつける必要がある。今後は、グループでの話し合い活動について、感染症防止を意識しながら、生徒の主体的な学びにつなげられるようさらに工夫していく。	A	新型コロナウイルス感染症防止を意識しながら、クロームブック等を活用した生徒の主体的な学びにつなげる工夫がなされており、評価できる。 全教職員が、努力を怠ることなく、継続的に授業研究に積極的に取り組み、魅力ある授業づくりに努めている。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領等の趣旨に沿った効果的な学習指導が展開できるよう努めている。個々の生徒に係る学力・学習状況をさらに、きめ細かに分析し、実態に基づく授業改善を図っていく。	B	文部科学省の学習指導要領の趣旨に沿った効果的な学習活動が展開できるよう努めている点は評価できる。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	新型コロナウイルス感染症防止の観点から、外部検定試験等を活用できなかった。校内研修をととして、英語に関する関心、意欲を高め、自ら進んで表現する指導を一層進めている。	A	セザリームの掲示物や授業の様子から、国際社会に対応できるグローバルな人材育成に力を入れている様子が見て取れ、評価できる。 英語科の教員とAETが協力して、指導計画を作成し、授業の充実に努めている。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	A	生徒会によるあいさつ運動が実施された。場に応じた言葉遣いできていないときにはその場で指導するよう全職員が心がけている。先輩や教師が見本となり、どの生徒も場に応じた振る舞いができるようになるために、より一層言語環境の整備に努める必要がある。	A	あいさつについて指導しているものの、人間関係が育まれている間柄では、生徒から進んであいさつできるが、そうでない場合には、進んであいさつできる割合は多くはない。 地道な取組が成果をあげているものの、今後もあいさつの大切さを指導し、場に応じた言葉遣いについても指導が継続的に必要と捉えている。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	道徳の時間の充実を図るとともに、自らの考えを進んで伝えたり、相手の立場を尊重して接したりすることができるよう指導している。 生活アンケートを定期的に実施し、生徒の実態把握に努め、小さなことでも全職員で共有し、組織的にいじめの撲滅を図っている。	A	道徳の時間の充実を図るとともに、自らの考えを進んで伝えたり、相手の立場を尊重して接したりすることができるよう指導している点は評価したい。 学校は、組織的にいじめの撲滅を図っている。生徒が、いじめをなくし、友達の良さやお互いの努力を認め合えるような学校生活を目指して欲しい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	教員自ら時間を守るなど、きまりやルールを守る必要性を納得させながら教職員規範意識を高めている。	A	生徒に、規律を守ることの大切さを理解させて、率先垂範で教職員が指導していただきたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	運動に苦手意識をもち消極的な生徒ほど、体力向上の大切さを意識できるような授業を心がけている。部活動については国・県・市の方針に則り、生徒の自主性、自発性をさらに尊重した活動が展開できるよう工夫を重ねている。	B	運動に苦手意識をもつ生徒に働きかけ、運動の大切さを伝えている点は今後も必要であり、良い方法である。 コロナ禍により、部活動の活動時間が少なくなり、運動する機会が減少している。昼休みにボールの貸出等実施しているところはあるが、さらに体力維持のための具体的な取組をしていただけるとありがたい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	六中のさらさら健康指針「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーに栄養職員を中心に、委員会活動と連携して、組織的に食育・健康教育を推進している。今後は、特別活動など学校教育活動全体の中でより一層体系的、計画的に指導していく。	A	廊下の掲示物等から食育に力を入れていることがうかがえる。栄養士さんや調理員さんには、季節に合った献立や体に良い物を手間をかけて作っていただいている。規則正しい生活習慣と食事は、生きるための基本であり、成長期の栄養バランスのとれた食事を心がける食育の取組に期待したい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	新型コロナウイルス感染症防止の観点から、学校運営協議会を実施しているものの、保護者会や授業参観等の機会が失われており、積極的に意見を取り入れるとはいえない。しかしながら学校に寄せられた具体的な要望や意見に対して誠実に対応している。	B	新型コロナウイルス感染症防止が第一となるため、現状では、外部の方の意見を聞く機会が少なくなり、積極的に意見を取り入れることが難しくなっている。 学校に寄せられた意見や要望は教育活動を振り返る材料として、教職員間で情報を共有し、指導に生かすようにしていただけるとありがたい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	B	六中だより、学年・学級だより、保健・給食だよりを計画的に発行している。町内会等地域の方へも配布しており、学校公開の機会に来校される方も増加傾向にある。また、ホームページの更新も定期的に行っている。	B	六中だよりの定期的な情報提供によって、情報がわかりやすく地域に伝わっている。町内会において学校だよりを、地域住民・保護者とも協議・連携して回覧することでさらにその効果が高まっていると言える。 また学校のホームページの更新についても評価できる。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	コミュニティ・スクール対象学校として学校応援団活動についての保護者・地域住民の理解が年々深まっていたが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、今年度も朝のコミュニケーション運動等さまざまな取組を中止としている。	B	コロナ禍によって、あらゆる学校応援団の活動が見送られている。 そのようななか、町内会等の登下校の見守り活動、わんわんパトロール等は実施されていた。 今後、コロナの終息に向けて、学校応援団の活動を以前のもの以上に盛り上げていただけるとありがたい。